

令和6年能登半島地震
DMAT隊派遣報告

contents

- ・ Walk in Operating Roomの紹介
- ・ 地域連携研修会の報告と次回予告

CHECK

山梨県立中央病院
医療連携
だより2024年より稼働開始した
Walk in Operating Room山梨県立中央病院
眼科医師

細田 修平

山梨県立中央病院眼科では、山梨県眼科医療の中核を担う施設として白内障、緑内障、網膜硝子体疾患、ぶどう膜炎、角膜疾患、斜視・弱視等、眼科疾患全般にわたって、幅広く診療を行っています。手術診療としては、白内障、緑内障、硝子体手術、硝子体注射を主として年間1000件以上の手術が施行されていますが、その長い手術待機時間により患者様や連携機関の先生方にご迷惑をおかけしておりました。

そんな中この度2024年1月より当院第3期中期計画（R2～R5）の3大テーマの1つであった日帰り手術が可能なWalk in Operating Room（WOR）が新たに稼働いたしました。

WOR内には全2室の手術室、リカバリーブース、診察室を備え、全身麻酔にも対応が可能です。1室は眼科専用の手術室となっており、これまで週3日だった手術室稼働日数は週5日に増加しております。手術室内には55型を含めた複数のモニター設備があり、Video Over IP Networkを介した手術室内外での術野共有が可能となっています。稼働開始以降は眼科だけでなく、腹部外科、乳腺外科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科など複数科が利用しており、これまで中央手術室で行われていた手術を、WORにて行うことができることで病院全体の手術件数増加につながっています。眼科手術、特に白内障手術に関してはこれまで約5～6ヶ月程度を要していた手術待機時間も約3～4ヶ月まで短縮することができ、また手術稼働日数増加に伴い近年減少傾向であった手術件数も2024年6月現在増加を認めています。

今後は徐々に日帰り手術症例の増加が見込まれますが、当院へご紹介いただく手術症例は、全身麻酔の希望、既往疾患の関係や独居のために通院手術が難しい等の理由で入院手術をご希望される患者様が多いことも事実です。これまでの入院治療だけでなく日帰り手術が可能となることにより、より広い患者様のニーズに応えることができると考えております。

今後当院ではHEOR（Hybrid Emergency Operating Room）、やHOR（Hybrid Operating Room）が稼働予定であり、より一層の手術機能の充実と、より高度な医療の提供が可能となることを期待できます。今後も当院の手術診療の発展にぜひご期待ください。



第一 WOR



第二 WOR

外来手術室 各科手術枠一覧

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
AM				耳鼻咽喉科① 眼科（全麻）	
PM	眼科 乳腺外科① 泌尿器科②	眼科 泌尿器科① 形成外科	眼科 形成外科 （心臓血管外科）	眼科 消化器外科 耳鼻咽喉科②	眼科 形成外科 （心臓血管外科）

（ ）今後導入予定



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1

TEL.（直通）055-253-9000 / FAX.（直通）055-251-7733

令和6年能登半島地震 DMAT隊派遣報告



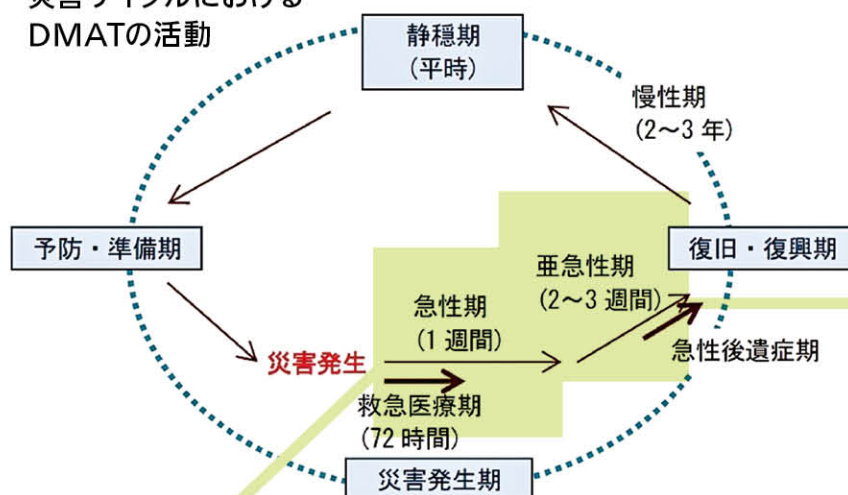
山梨県立中央病院
地域救急・
災害対策センター統括部長

宮崎 善史

2024年1月1日16時10分、北陸地方を襲った地震は能登半島を中心に甚大な被害を与えました。最大震度7、マグニチュード7.6という大規模な地震で、全壊家屋7,804棟、被災家屋10万棟以上、死者・行方不明者240人以上、負傷者1500人以上に上りました。発災直後、院内にいたDMAT隊員によりEMIS（広域災害救急医療情報システム）の入力と情報収集が行われ、その後病院へ駆け付けたDMAT隊員も交えて災害派遣に備えたミーティングを行いました。翌1月2日、石川県および厚生労働省DMAT事務局より正式な派遣要請を受けて、当院もDMAT隊を派遣することと致しました。以後、DMAT隊の派遣は第1班から第7班まで交代で2月中旬まで続くこととなります。

今回の震災では当院DMAT隊の派遣は長期に及び、災害発生の急性期（災害発生期：発災後1週間程度）から亜急性期（復旧・復興期：発災後2～3週間程度）に亘りました。第1班～第3班は急性期、第4班～第7班は亜急性期に該当し、それぞれの隊が時期や場所にに応じて様々な活動を行いました。

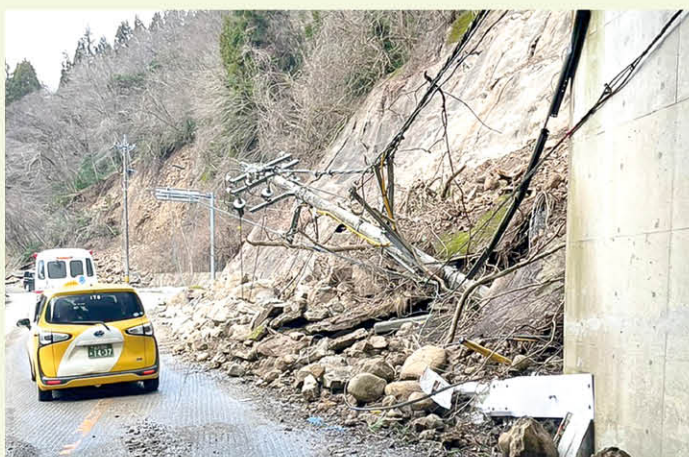
災害サイクルにおける DMATの活動



CHECK
1

第1班～第3班

最初に派遣された第1班は緊急車両のみが走行可能な悪路を進み、被災地内の病院支援に当たりました。救急外来の診療代行や当直業務などを行いましたが、断水で水は使えず、椅子や床で仮眠を取るという過酷な状況でした。このような支援が第2班、第3班に引き継がれ、急性期の災害支援を行うことができました。



第4班～第7班

第4班からは亜急性期となり避難所運営やそこからの避難者の搬送に携わることとなりました。今回の震災では、能登半島にある多くの介護施設も壊滅的な被害を受け、そこに入居していた多くの方々が避難を余儀なくされました。石川県は金沢市内の石川スポーツセンターを避難所に定め、そこに全ての避難者を一時的に受け入れることといたしました。ただし、そこはあくまでも一時的な避難所であり、そこからどこか別の施設に移らなければなりません。とは言え、受け入れ可能な施設を探すことも容易ではありません。その調整はソーシャルワーカーの方々にご尽力いただきながら何とか進めていましたが、非常に困難を極めておりました。



今回の震災を教訓に、山梨県における備えについて考えてみたいと思います。まずは医師や医療機関の数についてですが、R4年12月31日現在、人口10万人当たりの医師数が山梨県では267.8人なのに対し石川県では303.2人と石川県の方が多いのに加え、救命救急センターと大学病院が山梨県ではそれぞれ1施設ずつなのに対し、石川県ではそれぞれ2施設ずつあります。この違いは重症者の診療に影響することが予想されます。多数の重傷者が出た際に山梨県内だけで診療することが困難になる可能性があります。また、病院だけではなく介護施設などにおける備えも考えておくなくてはなりません。今回の震災を振り返ると、万が一の場合の避難場所を確保しておくことも必要なことと言えるでしょう。



このような震災はいつ、どこで起こるか分かりません。今後起こりうる震災に備え、病院だけでなく様々な施設も交えて山梨県全体で検討をしておくことが必要であると考えます。

地域連携研修会が開催されました

5.29 WED

「時代に乗り遅れない！
今知っておくべき糖尿病・肥満治療」

山梨県立中央病院 糖尿病内分泌内科
滝澤 壮一 医師

令和6年5月29日（水）に、Webシステムを利用して第99回地域連携研修会を開催しました。当院の糖尿病内分泌内科 滝澤壮一医師より「時代に乗り遅れない！今知っておくべき糖尿病・肥満治療」をテーマに、最新の糖尿病・肥満治療について講演していただきました。院内17名、院外54名、合わせて71名の方に参加していただきました。



6.24 MON

「骨折リエゾンサービスチームの活動報告
2年経過しての成果と今後」

山梨県立中央病院 整形外科部長 江口 英人 医師



高齢化率30%を超える山梨県において、健康寿命と平均寿命の差とされる10年を縮めるべく、脆弱性骨折の代表である大腿骨近位部骨折ならびにその背景にある骨粗鬆症に対し解説いただき、当院の骨折リエゾンサービスチームの取り組みと地域医療施設との循環型連携の必要性について講演いただきました。二次性骨折予防継続管理料を有効に患者の健康寿命の延伸にフィード・バックできるよう今後ともさらなる活動を継続していきます。

7.29 MON

「新手術室で出来る手術
～TAVI・MitraClip・WATCHMAN～」

山梨県立中央病院 循環器内科
佐野 圭太 医師



令和6年7月29日（月）、Webシステムを利用して、第101回地域連携研修会を開催しました。循環器内科佐野圭太医師より「新手術室で出来る手術～TAVI・MitraClip・WATCHMAN～」をテーマに、ハイブリッド手術室新設により、当院で新たに施行可能となるカテーテル治療と適応となる症例について、わかりやすく講演していただきました。

8.20 TUE

「禁煙しませんか？
～禁煙外来の取り組みと活動報告～」

山梨県立中央病院 呼吸器内科 筒井 俊晴 医師

2016年11月より、当院では禁煙外来を開設し、さらに専任の多職種チーム部会を組織して禁煙に日々取り組んでいます。禁煙外来では、ニコチン依存症の診断から始まり、禁煙治療の重要性を深く理解をしてもらい、離脱症状に対する治療を進めています。個々の患者さんに合わせた対応を心がけ、3ヶ月で計5回の受診プログラムを通じて、約6割の患者さんが禁煙を達成しています。近年では受動喫煙や3次喫煙の影響についても新たな知見が得られており、これらの啓蒙活動も積極的に行っています。



次回研修会

Web研修会

Zoomでの開催

日時:10月10日(木)
18:00～18:50

アフリカ ザンビアにおける
HIV診療・予防の現状

国立国際医療研究センター
国際医療協力局

法月 正太郎 先生

研修会の情報はホームページでも
ご案内しています。併せてご覧下さい。

<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>



紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、
かかりつけ医によるFAX予約ができます。 **FAX. 055-253-2903**

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状（診療情報提供書）を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

1

かかりつけの
医院を受診

紹介状をもらって
ください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00～17:00 月～金（祝祭日除く）

①紹介状②電話診療予約申込書
③当院の診察券（お持ちの方は）

お電話前に
準備して
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証（老人医療、公費等該当する方）